

平成19年度 第2回東北ブロッククラブミーティング開催報告

期日 平成19年11月11日(日)

場所 秋田県生涯学習センター分館・ジョイナス

平成19年11月11日(日)東北ブロッククラブミーティングが秋田市民会館を会場に開催されました。当日は、東北6県の育成指定クラブより32クラブ、特別支援12団体から合計59名の参加がありました。今回は、グループワークを中心とした内容のため、進行役として広域スポーツセンター担当の方々にもご協力いただき、開催しました。

グループワーク「会費の設定」では、6~7名を1グループとして、育成アドバイザー及び都道府県担当者、広域スポーツセンター担当者を進行役とし、同一条件の元、事務局の支出や事業での支出を計算し、その後収入の計算をし、赤字経営にならないよう調整するシミュレーションを体験して頂いた。

グループワークでは、クラブ及び特別支援の担当者には「既存団体との連携」をテーマに、グループで討議していただいた。参加の行政担当者については、「クラブに対する支援のあり方」について討議していただいた。

まとめでは、グループワークで体験していただいた内容を代表グループから、報告と感想を話していただき、クラブつくりの実践シミュレーションを地域に戻って、実践して欲しいと思います。

【グループワーク】 「会費の設定方法」コーディネーター 地方企画班員 小松 史嗣

1 条件整理

あらかじめ、シミュレーションを行うに対してクラブを設立するための条件を整理していただいた。今回は、東北地方の一般的な、農村部、人口8000人、2800世帯、目標会員数10%、年代別人口比率を条件にクラブを設立すること条件に設定し、シミュレーションしていただいた。また、グループワークのルールとして30秒ルールを適用し、1人の舞台にならないように注意しながら、ポジティブシンキングルールを適用し、シミュレーションが円滑に進めるようルールを決めて行った。

2 事務局運営費の算出

事務局を運営するための経費を科目別にシミュレーションしていただいた。科目としては、報償費・職員給与・福利厚生費・賃借料・広告宣伝費・旅費・消耗品費・整備費・食料費・光熱水費・役務費・保険料・通信運搬費・租税公課費・繰越金・負担金といった事務局運営で想定される科目を設定し、経費算出していただいた。

3 事業経費の算出

プログラムのサンプルを事前に設定し、その中から事業を選び、事業経費を算出していただいた。

主に、エアロビクス等を中心とするフィットネス事業と各種スポーツ教室を選択するグループが多く、指導者の謝金などしっかりとした運営体制の整備をしたいという意欲が伺えた。

4 支出の計の算出

事務局運営費及び事業経費から支出計を算出していただいた。グループごとにみると、クラブマネージャーや事務局員の雇用状況により、経費の違いが見られた。思ったよりも多額な経費が必要になり、理想と現実に戸惑う方も見られた。

5 会員制度と年会費の設定

クラブの事業にあわせ、会員種別を設定し、年会費を設定していただき、目標会員数を設定し、会費収入を算出していただいた。

主に、一般会員・子ども・家族・賛助といった設定をしたグループがほとんどであった。

6 保険料の設定

保険料の考え方で相違があり、クラブの収入として、設定するグループとクラブ収入ではなく、クラブが取りまとめて申し込むサービスとして捉え、収入としないグループで意見が分かれたように思われた。

7 事業収入の算出

事業支出で選択したサンプルの事業収入を算出していただいた。当初予定した事業での適切な参加費を設定し、参加者数の設定にあわせ事業収入の計を算出し、事業種類が会員数の見合わない場合もあり、その際には新たな事業を追加するなど調整しながら算出していた姿が印象的だ。



8 補助金やその他の収入の算出

補助金は運営上安定しない収入として捉え、最初から計上しないグループと、まずは、補助的な収入源として捉え、高額ではないが設定しているグループ、補助金ではなく、協賛金を設定しているグループとそれぞれであった。

9 収入の計の算出

会費・保険・事業・補助賛助の計を算出していただいた。この時点では、会費収入を懇ろで設定したグループと月会費などから考慮したグループで額にばらつきがあったように感じた。

10 収支の算出

一旦、そのままで収支を計算していただいた。支出と収入を比較すると、赤字になってしまうグループや希望的観測から大変な黒字が生じてしまうグループもあった。

11 収支バランスの調整

収支で出たバランスから、赤字については、収入や事業の見直しなどを行っていただき、黒字グループについては、公共性を考え、次年度への繰越や、業務負担を考慮し、職員の増加など検討しているようであった。



全体を通し、様々な経営方法のテクニックがグループ内で情報交換され、参加者のアイデアが盛り込まれたシミュレーションであったように感じました。それぞれが新たに得た情報を持ち帰り、クラブ作りや育成に役立てていただけたと思います。

(報告 小松 史嗣)

【グループワーク】「既存団体との連携」コーディネーター 地方企画班員 司東道雄

1 ルールの設定

話し合いが効率よく、前向きな話し合いとなるように、思いつき発言でのその場しのぎや他の方の発言に対して否定的な発言にしないこと、発言は多くの方のアイデアを出していただくため、30秒以内にまとめて発言することを全員で確認し、話し合いに臨んだ。

2 課題の整理

現在のクラブ準備を進める上で、既存団体との連携を促進するための課題となっている項目を各自でポストイットに記入し出し合い、類似している項目ごとにまとめた。

3 課題の解決策について考える

まとめた項目に沿って、その項目を解決するために、どの既存団体との連携・協力・融合を図って行けばいいのか、また解決した事例や上手く解決するにはどうしたらいいのかをアイデアとして出し合った。

新しい取り組みである総合型地域スポーツクラブを立ち上げるときに、必ず既存団体と話し合う場が生じる。クラブから国が勧める総合型クラブなので連携をお願いしても反発があることも多い。クラブを創るのではなく、各団体地元の環境を整える為に問題を共有し、解決するために連携・融合・協働いろいろな手法がある。

まず、話し合う前に、「思いつき発言・他人発言否定しない・発言30秒」とするルールを決めた。



(報告 司東 道雄)

【グループワーク】 「行政支援の在り方」コーディネーター 地方企画班員 小松 史嗣

1 現状の取り組み

現状の設立準備において、行政からどのような支援の下で進められているのか、設立段階に沿って、取り組みを出し合った。

2 考えられる支援とは

今後、行政からクラブに対して考えられる支援策について、考えられるアイデアを各自で出していただいた。

3 支援方法の整理

出された取り組みやアイデアの類似点を整理し、共通の支援策について、具体的な方法例や理想的な方法について議論していただいた。

行政がクラブに支援する方法は、地域によってそれぞれなのが現状であり、なぜその支援策を行ったのか経緯を聞いたり、事例を聞くことにより、新たな支援策を知ることが出来るとともに、支援のあり方について整理することが出来たように思います。

話し合いの後には、スポーツを丸抱えにしてきた体制から、「自立」へと導く戦略的思考に意識変化し、支援策についてもその戦略に沿って選んで行く必要性を考えていただき、まとめとした。



(報告 小松 史嗣)

【まとめ】「全体会」コーディネーター 地方企画班長 黒須 充

グループワーク で有給マネジャーを雇用しないシミュレーションを行ったグループ、有給マネジャーを雇用したグループの各代表から感想を含め発表していただいた。その後、「既存団体との連携」からも、グループワークの状況と感想を含めて発表していただいた。

それぞれ特徴的なシミュレーションの中では、黒字経営のシミュレーションがほとんどであったが、多くの収益が出るクラブと収支で小額な収益しか出ないクラブとまちまちで、また、会費の設定についても、事業収入を主な収入源とし、会費については、低額な設定をするグループがほとんどであった。このシミュレーションでは、新たなアイデアがグループ内で出されたことによって、クラブ育成に実践的なヒントを得たと感想を話されていた。

既存団体との連携では、クラブのどの事業で、どのような既存団体との連携が必要なのか整理したことで、連携の重要性が理解できた点など感想を話されていた。

まとめでは、「クラブの自立」をテーマにクラブは何のために設立するのか、どのような役割があるのかを再確認し、設立に結び付けてゆく必要性を痛感させられ、閉会とした。